



令和 8 年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第 6 号

令和 8 年 7 月 23 日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8068 FAX 0226-22-1606

- 県内では 7 月以降気温の高い状態が続いています。三陸沿岸の出穂期は 8 月 4 日頃となる見込みです。
- 登熟期間に高温に遭遇すると、白未熟粒の発生が多くなります。玄米の品質低下を避けるため、葉色が低下しているほ場では、生育量と生育ステージに留意して、追肥を行いましょ
- 水田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類が多く確認されています。ほ場をよく観察し、遅れないよう適期に防除を実施しましょ

1 気象の概況

7 月以降は平年を上回る気温で推移し、日照時間もおおむね平年を上回りました。降水量は平年を下回っています。

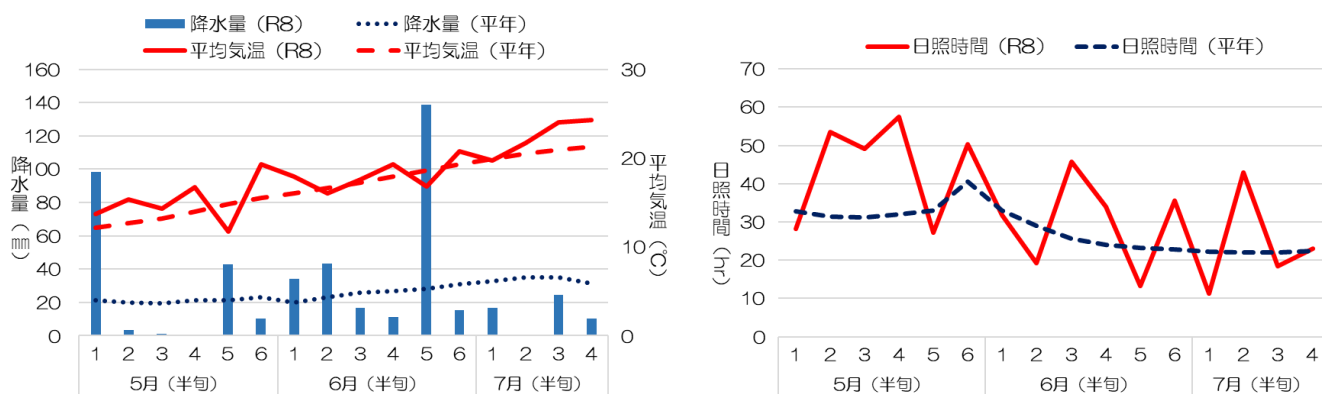


図 1 気象経過図（気仙沼アメダス：5 月 1 日～7 月 20 日）

2 水稻生育調査ほの生育概況（7 月 20 日調査）

本年は前年よりも移植時期が遅かったことから、草丈、茎数は前年を下回っていますが、前回調査時よりその差は縮まっています。葉色値は前年より高い 39.4 となりました。生育調査ほでは、幼穂長は 13.4 mm で、幼穂形成期に入りました。

表 1 水稻生育調査結果（7 月 21 日調査）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	茎数 (本/株)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R8 前年比・差	5/25 +11 日	64.5 92%	435 79%	23.9 83%	39.4 127%

3 生育ステージの予測

三陸沿岸の幼穂形成期、減数分裂期、出穂期の予測は表2のとおりです。ただし、今後の天候によっては生育ステージの時期が変動することもあります。**ほ場で幼穂長を確認し、表3により生育ステージを把握することが重要です。**

表2 生育ステージの予測（令和8年7月10日現在）

地帯区分	移植時期 (田植え盛期)	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
三陸沿岸	5/12	7/11	7/21	8/4

注1) 幼穂形成期及び出穂期は、「DVR法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の10日後とした。気温はメッシュ農業気象データ（農研機構）により、当日までの実況値とその後26日間の予報値を使用している。

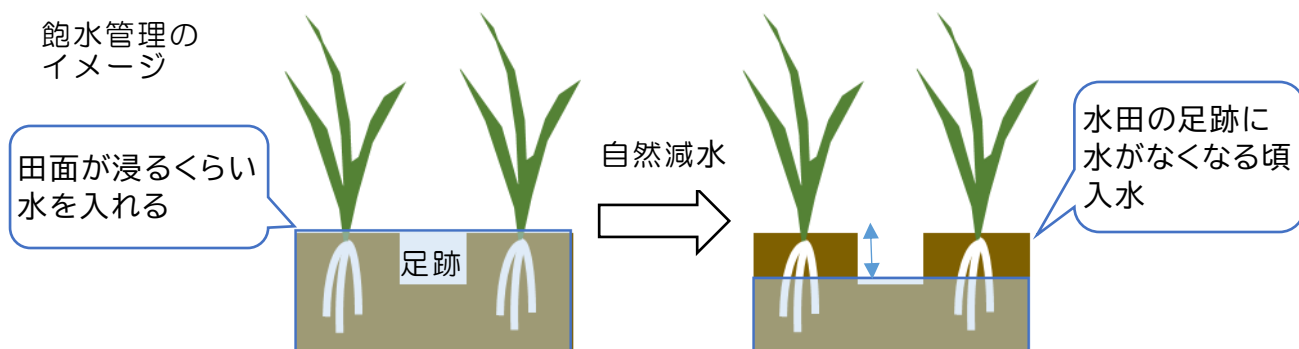
注2) 移植時期の葉数は県生育調査ほ＋作況試験ほ「ひとめぼれ」平均の3.0葉とした。

注3) 地帯区分「三陸沿岸」は、気仙沼市・南三陸町の全域と石巻市・登米市の一部。

4 今後の栽培管理

(1) 水管理

- 出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。間断かん水又は飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。
- 高温時は土壌を湿潤に保つ「**飽水管理**」を維持することで、湛水管理に比べて稲体の温度が低下しやすく、乳白粒などの発生を軽減できます。今後も高温が予想されていますので適宜「**飽水管理**」を実施しましょう。



(2) 追肥

- 全体として、本年は葉色値が高く推移している傾向にあります。特に基肥に緩効性肥料（長期溶出型の被覆尿素肥料等）を適正量施用した場合は、原則として穂肥は行わないようにしましょう。
- ただし、減数分裂期（幼穂長3～12 cm）の葉色値が低い場合（グリーンメーターで33以下の場合）は追肥を検討しましょう。
- 追肥後に一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病に対する抵抗力が弱まるので注意しましょう。

表3 各品種における追肥の時期と量の目安

品 種	窒 素 施 用 量 （成分量kg/10a）	
	幼穂形成期（出穂25日～20日前） ※幼穂長1～2mm	減数分裂期（出穂15～10日前） ※幼穂長3～1.2cm
ひとめぼれ	1	1
ササニシキ	—	1.0～1.5

(3) 病虫害防除

【斑点米カメムシ類】

- ・県病虫害防除所の発生予報第4号（7月23日発行）によると、斑点米カメムシ類の発生時期は「やや早い」、発生量は「多」と発表されています。

〈水田の管理〉

- ・県内の斑点米カメムシ類の最重要種はアカスジカスミカメであり、主に第1世代成虫（発生盛期：7月中下旬）が水田に飛び込んで稲を加害するため、イネ科雑草が生えた堤防や雑草地の草刈りを7月中旬までに行うことが重要です。
- ・ただし、稲が出穂（穂が出てくる）を迎える時期（宮城県では平年7月下旬～）に草刈を行うと、斑点米カメムシ類を水田へ追い込んでしまうため、稲が出穂を迎える時期は草刈りを控えてください。

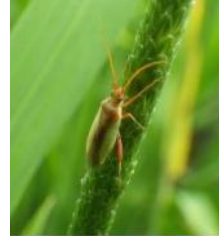


写真 アカスジカスミカメ



写真 クモヘリカメムシ

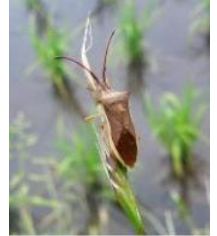


写真 ホソハリカメムシ

〈水田の薬剤防除〉

- ・水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。

【いもち病】

- ・葉いもち感染好適日を判定するシステム「BLASTAM」によると、管内では7月3日、13日に感染に好適な条件が出現しています。
- ・いもち病の予防粒剤の効果が低下してくる時期です。ほ場を見回り、発生を確認した場合は茎葉処理剤で直ちに防除を実施しましょう。
- ※葉いもち感染好適条件の出現状況（BLASTAM（プラスタム））は、県病虫害防除所ホームページで確認できます。
- ・穂いもち防除には、予防効果のある水面施用剤（粒剤、パック剤）を、出穂10日前までに散布しましょう。



宮城県病虫害
防除所
BLASTAM

【紋枯病】

- ・県病虫害防除所の発生予報第4号によると、発生量は「平年並」となっています。
- ・出穂期前からの発病は被害が大きくなります。また、前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあります。
- ・茎葉処理剤による防除又は処理適期は、穂ばらみ期から出穂期です。要防除水準は出穂直前の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%となっていますので、要防除水準に達した場合は直ちに防除しましょう。

【稲こうじ病】

- ・前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤による防除は出穂20～10日前に防除を実施しましょう。

5 乾田直播栽培普及展示ほの生育概況（7月20日調査）

（1）調査ほでの生育状況

草丈、茎数、葉色値の、全ての項目で前年を下回る結果となりました。また、幼穂長は8.1 mmで、幼穂形成期を迎えました。

表4 水稻生育調査結果（7月21日現在）

品 種 地区名	年	播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R8 前年比・差	3/25 －2日	66.1% 98%	64.5 94%	401.7 81%	33.3 81%

（2）今後の栽培管理

前述の「3 今後の栽培管理」を参照。

6 向こう1か月の天候の見通し（東北地方）

（令和8年7月16日 仙台管区气象台発表）

○予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

○向こう1か月の天候

- ・東北日本海側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

★7月から9月は 夏の熱中症等声かけ期間 です！

農作業中の熱中症等による死亡者が急増しています！

このうち、約85%が7～8月に発生しています。

熱中症事故は、周りの人がお互いに気を配り、声をかけ合うことで、防げる可能性があります！



（参考）

農林水産省 HP

熱中症対策の3つのポイント！

- ① 温度を見て作業を考えよう ② こまめに休憩を取ろう ③ もしもの時の応急処置

次回の稲作情報の発行は、令和8年8月下旬を予定しています。